

令和3年度

比叡山中学校 学校評価

令和3年度
重点目標

- 1) 学園の理念を学校生活で実現するため、「掃除・挨拶」を徹底し、「朝礼」の充実を図り校訓の具現につとめる。校訓と学校実践目標の励行によって、「知識・技能を身につけ、行動力をもって社会貢献でき、これからの時代を生き抜く力を持つ生徒」を育てる。
- 2) 学習習慣づくりをサポートし、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、主体的に学ぼうとする力を育てる。
- 3) 日々のホームルーム活動・部活動、また体験学習等の学校行事を通じて、生徒のコミュニケーション能力を育てるとともに、自主自立（自律）を促す。
- 4) 基本的な学校生活の習慣を確立することを最優先として、学習と部活動のバランスをはかる。
- 5) 学校図書教育を充実させ、読書週間と図書室の接点をはかり、自ら書物に親しみ、深く考察する視点を養う。
- 6) 特別支援教育の視点を共有しつつ、生徒と教員の人権意識や個性を認める支援の充実をはかり、いじめ・体罰を許さず、人と人の絆を大切に作る集団づくりをめざす。
- 7) 生徒と向き合い、懇談会の充実や説明会の対話を通じて、保護者との連携を深めて信頼関係を築く。
- 8) 個々の教員及び教員集団としての資質・能力・指導力の向上をはかる。主体的・対話的・深い学びの実現をめざして、ICT教育の研究と推進、グローバル教育の充実をはかる。
- 9) 中高同一敷地となった新しい学習環境を生かし、教職員の一体化をめざした体制整備を進める。
- 10) 本校ならではの独自の魅力を広く伝え、積極的な入試広報活動につとめ、本校の理念を深めていける生徒の入学につなげる。

領域	評価項目	中間評価	年度末評価	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	・学校の教育方針や教育目標、教育活動について理解が得られるよう分かりやすく説明している。	A		
	・学校の教育方針や教育目標が実現できるよう具体的な取り組みを進めている。	A		
2 学習指導	・基礎学力充実のため授業を工夫し、学習習慣を身につけさせ、生徒自らが学習する力を育てている。	A		
	・家庭学習の習慣を身につける指導を行っている。	A		
3 生徒指導	・掃除・挨拶を中心に、基本的な生活習慣の確立に向けた効果的な指導に努めている。	B		
	・規則や規律を守る指導が適切に行われ、社会の一員としての意識を高める取り組みができています。	A		
4 進路指導	・6年間を見通した個々の能力・資質の伸長につながる適切な進路指導が行われている。	B		
	・将来の目標達成に向けて、進路に関する情報や資料の収集、およびそれらの提供が適切に行われている。	B		
5 特別活動	・部活動が顧問の指導の下に、生徒が主体性を持って取り組み、活発で有意義な活動となっている。	A		
	・体育祭・文化祭などの学校行事を通じ、生徒会活動や学級活動が互いに高め合い認め合う活動が行われている。	B		
6 学校図書室	・生徒に必要な本や情報を提供し、図書室の利用を促進するように努めている。	A		
	・教員が授業やHRなどを通じて、図書のおもしろさや大切さ、また図書室の利用をすすめている。	B		
7 保健・安全指導	・日常の健康観察に努めるとともに、生徒の病気やけがに対し適切な対応ができています。	A		
	・保健室だよりなどの情報提供により、健康・安全に対する意識の向上に努めている。	A		
8 人権教育	・個々の生徒がお互いの人権を尊重し合える、「いじめ」のない集団づくりに努めている。	A		
	・校内人権デーなどの人権学習を通じ人権意識向上に努め、生徒の個性を認める支援を適切に行っている。	B		
9 環境教育	・ゴミの分別の指導やリサイクル運動への取り組みなど、環境問題に対する意識を向上させる指導を行っている。	B		
	・清掃活動に意欲的に取り組み、トイレや教室を美しく保つ指導を行っている。	A		
10 事務・管理	・教育活動に必要な備品、消耗品についての整備がなされている。	A		
	・個人情報の管理を含め、適切な文書管理が行われている。	A		
11 その他 学校の取り組み	・朝礼及び朝礼訓話を通じて、生徒の精神的な成長を促す取り組みが行われている。	A		
	・クラス担任や学年主任が中心になって、保護者との連携がとれている。	A		
	・学校生活の様々な場面で、体罰・いじめの防止および早期発見に努め、迅速な対応が適切な対応が行われている。	A		
	・教育相談体制が整備され、個々の事例に対して協働して支援する体制づくりに努めている。	A		
	・ホームページ等を活用し、教育活動・学校案内についての情報発信に努めている。	A		
	・ICT機器を用いるなどして、生徒の主体的、協働的な学習や活動が深まるように努めている。	A		
	・異文化との交流を積極的に行い、多様な文化や考えに接し協働できる取り組みが行われている。	B		

7月 学校目標に基づいた評価項目の公表
 評価表の見方 10月 中間評価の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)A・B・C・Dの4段階で示す。
 3月 総合評価の公表(年間の教育活動に対する評価)A・B・C・Dの4段階で示す。

・A・B・C・Dの基準は、肯定的な評価が75%以上を「A」、50%以上75%未満を「B」、25%以上50%未満を「C」、25%未満を「D」とする。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は学校関係者(保護者・近隣小学校・地域)・保護者アンケートによる評価。